

## 音楽リテラシー育成のための基礎的研究 (2)

— 小学校音楽科教科書のカリキュラムの検討を中心に —

三村 真弓 河邊 昭子 福田 秀範 中村 将之  
青原 栄子 大橋美代子 吉富 功修 徳永 崇  
長澤 希

### 1. はじめに

小学校音楽科授業は、教科書を中心として行われることが多い。すなわち、教科書の題材構成や教育内容が音楽科カリキュラムの柱となっていると言えるのである。例えば、ハンガリーの一般小学校音楽科教科書1年生用では、題材名が「音楽のリズム：taとtiti」「音楽の節：ソーミ」「音楽の沈黙：休止符」「2拍子」などとなっており、音楽的知識等をそのまま表している。それらの教育内容を獲得するための教材が題材のなかに多数配置され、教育内容は知識として覚えるのではなく、歌唱活動や聴取活動を通して体得されるようになっている<sup>1)</sup>。一方、アメリカの小学校音楽科教科書でも、各ユニット名は「音楽の言語を学ぶこと」「音楽の技能を強化すること」「自分たちの音楽を作ること」などとなっており、そのなかの各レッスンには、「発想」「リズム」「形式」「旋律」「音色」「テクスチュア／和声」の6つの学ぶべき要素が明記されている<sup>2)</sup>。

すなわち、ハンガリーの音楽科教科書も、アメリカの音楽科教科書も、まず教育内容を明記し、それに合わせた教材を配置しているのである。それでは、日本の音楽科教科書はどのような題材で構成され、教育内容はどのように系統立てられているのであろうか。

音楽科授業における音楽活動を可能にするものは様々な音楽的能力である。この音楽的能力のうち、特に基礎となるものは音楽リテラシーである。音楽リテラシーとは、単に楽譜の読み書き能力のことを指すのではなく、その根底をなす、音高感、音程感、リズム感、音楽的語彙という音楽科の言語と、それらを獲得し使いこなす能力、すなわち聴取力、弁別力、再生力なども含んでいる。本研究者たちの関心は、この音楽リテラシーを育成するためには、どのような音楽カリキュラムが必要なのかにある。そこで、その基礎的研

究として、本研究では、我が国の小学校音楽科教科書の題材構成と、教育内容の系統性を明らかにすることを目的とする。

分析の対象とする教科書は、多くの学校で使用されている、教育芸術社の『小学生の音楽』第1学年～第6学年の6冊とする。教科書に加え、同社出版の『指導書 実践編』『指導書 研究編』も分析対象とする。さらに、府中市教育委員会編『府中市小中一貫教育音楽科カリキュラム』(2008)も参考にする。これは、2007年度に、府中市の小学校と中学校の音楽科教員が中心となって、教育芸術社の『指導書 実践編』『指導書 研究編』に準拠して作成した、小学校1年生から中学校3年生までのシラバスである。

研究の方法としては、まず教科書の題材構成の特徴を明らかにする。次に、現在小学校音楽科授業を担当している6名の教諭<sup>3)</sup>に、教育芸術社『小学生の音楽』に掲載されている教材ごとに、何を目的として教えているかをインタビュー調査する。その内容を参考にしながら、教育芸術社の出版物に見られる教育内容を特定し、各学年の題材と教材の教育内容を特定する。

(三村 真弓, 吉富 功修)

### 2. 『小学生の音楽』の題材構成

題材名と題材のねらいの学年配当を示したものが表1である。題材は学年に7つずつ設定されている。題材名に記載されている音楽の諸要素、音楽の知識には網がけをした。第1学年では「リズム」「いいおと」、第2学年では「ドレミ」「リズム」「いい音」、第3学年では「階名」「いろいろな音のちがひ」「ふしのとくちょう」、第4学年では「歌と楽器のひびき」「日本の音楽」「いろいろな音のちがひ」「ふしのとくちょう」、第5学年では「ふしの重なり合い」「アジアの音楽」「い

ろいろなひびき」「重なり合う音の美しさ」, 第6学年  
では「ふしの重なり合い」「世界の音楽」「いろいろな

ひびき」「重なり合う音の美しさ」「日本の音楽」等が  
あり, 学年があがるにつれて増えている。

表1 『小学生の音楽』の題材名と題材のねらい

学年	題材名	題材のねらい
第1学年	うたでともだちをつくらう	・音楽活動の <u>楽しさ</u> に気づいて, 進んで表現しようとする <u>意欲</u> を育てるようにする ・友達と一緒に歌ったり身体表現をしたりする <u>楽しさ</u> を感じ取ることができるようにする
	おんがくにあわせてあそぼう	・歌ったり身体表現をしたりして, <u>拍の流れ</u> を感じ取ることができるようにする ・ <u>拍の流れ</u> を感じながら, 簡単な <u>リズム</u> を表現することができるようにする
	<u>リズム</u> の <u>って</u> あそぼう	・歌ったり身体表現をしたりして, <u>リズムの違い</u> を感じ取ることができるようにする ・ <u>拍の流れ</u> に乗って, 簡単な <u>リズム</u> を表現することができるようにする
	いいおとをみつけてあそぼう	・音や響きの <u>違い</u> に気づいたり, 音の <u>出し方</u> を工夫したりして, 音に <u>関心</u> をもつようにする ・階名で模唱や暗唱したり, これをもとに楽器を演奏したりすることができるようにする。
	<u>ようす</u> をおもいうかべよう	・楽曲の <u>気分</u> を感じ取って, 想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・歌詞の <u>様子</u> を思い浮かべて, 歌い方を工夫することができるようにする
	みんなであわせよう	・楽器の音色や響きを感じ取って, 聴いたり演奏したりすることができるようにする。 ・互いの声や音を聴きながら, <u>拍の流れ</u> を感じ取って演奏することができるようにする
	のびのびとうたおう	・発音や声の <u>出し方</u> に関心をもって歌ったり, みんなで声を合わせて歌う <u>喜び</u> を味わったりすることができるようにする
第2学年	うたでともだちのわをひろげよう	・音楽活動の <u>楽しさ</u> に気づいて, 進んで表現しようとする <u>意欲</u> を育てるようにする ・友達と一緒に歌ったり身体表現をしたりする <u>楽しさ</u> を感じ取ることができるようにする
	<u>ドレミ</u> であそぼう	・歌ったり身体表現をしたりして, <u>拍の流れ</u> を感じ取ったり, <u>音高感</u> を身につけたりすることができるようにする ・階名で模唱や暗唱をしたり, これをもとに楽器で演奏したりすることができるようにする
	<u>リズム</u> の <u>って</u> あそぼう	・ <u>リズム譜</u> に親しみ, <u>拍の流れ</u> に乗って, 簡単な <u>リズム</u> を表現することができるようにする ・ <u>拍子</u> や <u>リズム</u> などの音楽の特徴を感じ取って, 身体表現をしたり演奏の仕方を工夫したりすることができるようにする
	いい音を見つけてあそぼう	・音や響きの <u>違い</u> に気づいたり, 音の <u>出し方</u> を工夫したりして, 音に <u>関心</u> をもつようにする ・音色の <u>違い</u> を活かして音の組み合わせ方を工夫したり, <u>拍の流れ</u> に乗って演奏したりすることができるようにする
	<u>ようす</u> をおもいうかべよう	・楽曲の <u>気分</u> を感じ取って, 想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・歌詞の表す <u>様子</u> を思い浮かべて, 歌い方を工夫することができるようにする
	みんなであわせよう	・楽器の音色や響きを感じ取って, 聴いたり演奏したりすることができるようにする ・互いの声や音を聴きながら, <u>拍の流れ</u> を感じ取って演奏することができるようにする
	のびのびとうたおう	・発音や声の <u>出し方</u> に関心をもって歌ったり, みんなで声を合わせて歌う <u>喜び</u> を味わったりすることができるようにする
第3学年	<u>階名</u> になれよう	・旋律を階名で模唱したり視唱したりして, <u>楽譜</u> を見て歌うことに慣れるようにする
	リコーダーに親しもう	・リコーダーの音に気を付けて聴いたり, <u>基本的な奏法</u> を身に付けたりすることができるようにする
	いろいろな音のちがいをかんじとろう	・音の特徴や音色の <u>違い</u> を感じ取って, 想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・旋律の特徴を活かして, <u>歌い方</u> や <u>楽器の演奏の仕方</u> を工夫することができるようにする
	ふしのとくちょうをかんとろう	・旋律の特徴を感じ取って, 想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・旋律の特徴を生かして <u>歌い方</u> や <u>楽器の演奏の仕方</u> を工夫することができるようにする
	<u>曲の気分</u> をかんとろう	・ <u>曲想</u> を感じ取って, 想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・歌詞の表す <u>様子</u> を思い浮かべて, <u>歌い方</u> や <u>楽器の演奏の仕方</u> を工夫することができるようにする
	音をきき合って合わせよう	・声や音が重なり合う <u>響き</u> を感じ取って, 聴いたり演奏したりすることができるようにする ・互いの声や音を聴きながら, <u>拍の流れ</u> に乗って <u>演奏の仕方</u> を工夫することができるようにする
	生き生きと歌おう	・発声や呼吸の仕方に <u>関心</u> をもって <u>歌い方</u> を工夫したり, 声を揃えて歌う <u>喜び</u> を味わったりすることができるようにする

第 4 学 年	歌と楽器のひびきを合わせよう	・旋律の階名視唱や視奏に親しみ、声や音が重なり合う響きを感じ取って演奏することができるようにする
	日本の音楽に親しもう	・旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、日本の伝統音楽に親しむようにする
	いろいろな音のちがいを 感じ取ろう	・音の特徴や音色の違いを感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・イメージに合った音を探して、表現の仕方を工夫することができるようにする
	ふしのとくちょうを感じ 取ろう	・旋律の特徴を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・旋律の特徴を生かして、レガートやスタッカートなどの歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫することができるようにする
	曲の気分を感じ取ら う	・曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・歌詞の表す様子を思い浮かべて、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫することができるようにする
	音をきき合って合わせ よう	・声や音が重なり合う響きを感じ取って、聴いたり演奏したりすることができるようにする ・互いの声や音を聴きながら、拍の流れに乗って演奏の仕方を工夫することができるようにする
第 5 学 年	生き生きと歌おう	・発声や呼吸の仕方に関心をもって歌い方を工夫したり、声を揃えて歌う喜びを味わったりすることができるようにする
	ふしの重なり合いを感 じ取ろう	・声や音が重なり合う響きを感じ取って、表情豊かに歌ったり演奏したりすることができるようにする ・重なり合う各々の旋律の特徴を感じ取って、演奏の仕方を工夫することができるようにする
	アジアの音楽に親しもう	・旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、アジアの音楽に親しむようにする
	いろいろなひびきを味 わおう	・音色や響きの特徴を味わって、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・旋律と低音の響きを感じ取って、演奏の仕方を工夫することができるようにする
	重なり合う音の美しさ を味わおう	・和音の響きの美しさを味わって聴いたり表現したりすることができるようにする ・和音の響きの変化を感じ取って、演奏の仕方を工夫するようにする
	曲想を感じ取ろう	・曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表情豊かに表現したりすることができるようにする ・曲想や歌詞の内容を生かして、表現の仕方を工夫することができるようにする
第 6 学 年	日本の音楽を味わおう	・歌詞と旋律のかかわりや人の声の特徴を感じ取って、日本の歌曲の美しさを味わうようにする
	心をこめて演奏しよう	・心をこめて演奏したり、気持ちを合わせて表現したりする喜びを味わうようにする
	ふしの重なり合いを味 わおう	・声や音が重なり合う響きを味わって、表情豊かに歌ったり演奏したりすることができるようにする ・重なり合う各々の旋律の特徴を感じ取って、演奏の仕方を工夫することができるようにする
	世界の音楽に親しもう	・旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、世界の音楽に親しむようにする
	いろいろなひびきを味 わおう	・音色や響きの特徴を味わって、想像豊かに聴いたり表現したりすることができるようにする ・全体の響きを感じ取りながら、楽器の音色を生かして演奏の仕方を工夫することができるようにする
	重なり合う音の美しさ を味わおう	・和音の響きの美しさを味わって聴いたり表現したりすることができるようにする ・三部合唱の響きを味わって歌うことができるようにする
第 6 学 年	曲想を感じ取ろう	・曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表情豊かに表現したりすることができるようにする ・曲想や歌詞の内容を生かして表現の仕方を工夫することができるようにする
	日本の音楽を味わおう	・日本の楽器の響きや旋律の特徴を生かした音楽の美しさを味わうようにする
	心をこめて演奏しよう	・心をこめて演奏したり、気持ちを合わせて表現したりする喜びを味わうようにする

(教育芸術社『小学生の音楽1 指導書 研究編』『小学生の音楽2 指導書 研究編』『小学生の音楽3 指導書 研究編』『小学生の音楽4 指導書 研究編』『小学生の音楽5 指導書 研究編』『小学生の音楽6 指導書 研究編』より、抜粋しまとめた)

音楽の諸要素としては、第1学年と第2学年ではリズムと音色、第3学年ではリズムがなくなって旋律が加わる。第4学年では旋律の重なりが加わり、第5学年では和音が加わる。楽譜に関する知識としては、第1学年から階名唱が始まる。日本の音楽は第4学年から第6学年まで登場し、アジアの音楽は第5学年で、

世界の音楽は第6学年で扱われる。□で囲った、第1学年と第2学年の「ようす」、第3学年と第4学年の「曲の気分」、第5学年と第6学年の「曲想」は、想像豊かに聴いたり、表現を工夫したりすることに結びつくものであるが、非常にあいまいな内容であり、我が国独特の教育内容であるといえよう。

題材のねらいでは、音楽の教育内容には■を、情意に関する内容には□を引いた。第3学年くらいから、音楽の教育内容が多くなっているのがわかる。しかし、□を引いた「味わう」「工夫する」「感じ取る」「関心をもつ」「親しむ」「思い浮かべる」「慣れる」「あそぶ」という動詞がそれらの教育内容についているために、あいまいなねらいとなってしまう。つまり、教育内容を「できるようになる」「わかる」「理解する」とはなっていないのである。

### 3. 『小学生の音楽の』の教育内容

教育内容は、『府中市小中一貫教育音楽科カリキュラム』と小学校音楽科教師へのインタビュー調査の内容を参考にしつつ、『小学生の音楽 指導書 実践編』1～6の記述内容から特定した。表2の右の項目は、教育内容から読み取れる音楽の諸要素や知識である。

表2 『小学生の音楽』の教育内容

学年	教育内容	音楽の諸要素・知識
第1学年	・歌う楽しさ ・音楽に合わせた自由な身体表現の工夫	
	・拍の流れの感得 ・4分音符と4分休符のリズム打ち ・2拍子と3拍子の違いの感受 ・歌詞に合わせた身体表現	拍の流れ リズム リズム
	・4分音符・4分休符のリズムの感得 ・分割リズム（8分音符）の感得	リズム リズム
	・鍵盤ハーモニカのドレミファソ ・4分音符・4分休符のリズム ・高い音／低い音	ドレミファソ 音の高低 楽器の音色
	・楽器の音色（カスタネット、タンブリン、鍵盤ハーモニカ） ・階名唱、ドレミリレー ・4分音符・8分音符・4分休符のリズム ・階名模唱、1小節のふしづくり（ドレミファソ）	階名 リズム 階名
	・場面の様子の想像、身体表現の工夫 ・簡単な打楽器（すず、トライアングル）でリズム打ち ・場面の様子や曲の気分の感受	リズム
	・ラテン楽器（マラカス、ギロ、クラベス、コンガ、ボンゴ）の聴き分け ・3拍子の拍の流れ、身体表現の工夫 ・階名唱、合奏（原盤ハーモニカ、鉄琴）、旋律の気分の違いの感受、演奏の工夫 ・交互唱	音色 拍子 階名
	・歌い方の工夫、情景の想像	
	・歌詞の内容に合った身体表現の工夫 ・様子の想像、歌い方の工夫	

第2学年	・ドレミファソラシドレ（身体活動を伴って） ・階名模唱、階名暗唱、鍵盤ハーモニカ ・ドレミファソ（五線譜上の位置） ・3拍子のリズム ・輪奏、鍵盤ハーモニカのポジション移動 ・ふしづくり（和音の構成音を選んで）	音高感 階名 楽譜の知識 リズム
	・2拍子と3拍子の比較、指揮（鑑賞） ・3拍子のリズム（身体活動、リズム打ち） ・4分音符、4分休符の記号 ・2拍子のリズム（リズム打ち） ・8分休符、8分音符の記号 ・リズムの組み合わせ（カードを使って） ・3拍子の気分、指揮のまね、身体表現	リズム リズム 楽譜の知識 リズム 楽譜の知識 リズム リズム
	・情景（歌詞内容から） ・楽器の音の聴き分け（バイオリン、トランペット、クラリネット、フルート、打楽器小物） ・素材（皮、木、金属）による音の特徴の把握と音の出し方の工夫 ・音色の違う素材を組み合わせるリズム打ち	楽器の音色 音色 リズム
	・情景（歌詞内容から）、歌い方の工夫 ・情景（鑑賞）、身体表現 ・様子の想像と歌い方の工夫、階名唱、階名暗唱	階名 階名
	・楽器の音色（フルート、クラリネット、トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバ、打楽器） ・2分音符の記号 ・ソラシド（五線譜上の位置） ・合奏（主旋律＋副次的な旋律＋低音）、階名模唱、階名暗唱 ・様子の感受、輪唱 ・歌声、歌い方、発音の指導	楽器の音色 楽譜の知識 楽譜の知識 階名
	・曲の気分の感受、情景の想像、声の出し方・息つぎの仕方の工夫 ・ト音記号、線名、小節線、縦線、終止線 ・指くぐり、指またぎ（鍵盤楽器） ・ドレミの階名唱（身体で音高表現） ・階名視唱 ・ふしづくり（和音の構成音を選んで）	楽譜の知識 階名 階名
	・リコーダーの構え方、基本的な奏法 ・リコーダーのソラシドレ ・ラドレを使ったふしづくり	
	・日本の旋律の気分の感受 ・イメージを音で表現（効果音） ・金管楽器（トランペット、ホルン、トロンボーン）（鑑賞）	旋律 楽器の音色
	・ふしの感じの違い（歌、身体表現） ・ふしの感じの違い（鑑賞、図形楽譜） ・歌詞の様子の想像、曲の気分の感受、歌い方の工夫 ・なめらかなふしの感じ（リコーダー）	旋律 旋律 旋律

第 3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞内容や旋律の特徴の把握, 表現の工夫 (歌とリコーダーの合奏)</li> <li>2分音符のタイ</li> <li>情景の想像, 曲の気分の感受, オーケストラの響き, 曲想の変化 (鑑賞)</li> <li>階名唱, 曲の気分の感受, 演奏の仕方の工夫, 下のソ</li> </ul>	旋律 楽譜の知識 階名 楽譜の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>音の重なり (3度) や響き合いの感受, 曲の気分の感受, 歌い方の工夫 (合奏, 二部合唱)</li> <li>歌と楽器の響き (オペラ, 鑑賞)</li> <li>低いラシの位置, リコーダーの低いレドの吹き方, 楽器の組み合わせの工夫, 音色を生かした演奏の仕方の工夫, 楽器の重なり合う響きを味わう</li> </ul>	音の重なり 楽譜の知識 音色
	<ul style="list-style-type: none"> <li>全音符の記号</li> <li>歌詞の内容や旋律の感じから曲想を感受, 表現豊かな歌い方の工夫</li> <li>言葉に合わせたリズムづくり</li> </ul>	楽譜の知識 リズム
第 4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の意味の理解から情景を想像, 日本の旋律の特徴を味わう</li> <li>楽器の使い方の工夫, 打楽器の音色, 曲の感じを生かしたラテン打楽器によるリズム伴奏の工夫, 部分二部合唱</li> <li>歌詞の内容や旋律の感じから曲想を感受, 歌い方の工夫, ふしづくり (和音の構成音を選んで)</li> <li>歌詞の内容や旋律の感じから曲想を感受, 歌い方の工夫, 強弱の変化の工夫</li> </ul>	日本の旋律 楽器の音色 リズム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の音楽</li> <li>旋律の特徴を感受し, 曲の気分を生かした歌い方の工夫, 和楽器によるリズム伴奏の工夫</li> <li>歌詞の内容の理解, 情景を想像し歌唱</li> </ul>	郷土の音楽の 知識 リズム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>音色さがし, 奏法の工夫</li> <li>音色の違いを生かした表現の工夫</li> <li>木管楽器 (フルート, オーボエ, クラリネット)</li> </ul>	音色 音色 楽器の音色
	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や旋律の感じから曲想を感受, 情景を想像し歌唱</li> <li>ふしの感じの違い (滑らか/弾んだ, 鑑賞)</li> <li>ふしの感じを生かした演奏の工夫</li> <li>スタカートとレガート</li> <li>歌唱法 (スタカート)</li> <li>リコーダーのサミング, 二部合奏, 二重奏</li> </ul>	旋律 旋律 楽譜の知識
第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の気分を生かした歌唱, 歌唱法 (自然で無理のない歌声)</li> <li>情景, 曲想の変化 (鑑賞)</li> <li>主旋律に合ったリズム伴奏づくり, 2/4拍子の記号</li> </ul>	リズム 楽譜の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋律の感じの違いに気づき歌い方を工夫, 旋律の重なり (パートナーソング)</li> <li>吹奏楽, 主なふしともう1つのふし</li> <li>二部合唱</li> <li>記号 (4/4拍子, 3/4拍子, #, b)</li> </ul>	旋律 楽器の知識 旋律 楽譜の知識

第 5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱法 (発声, 発音, 呼吸)</li> <li>言葉に合ったリズムづくり</li> </ul>	リズム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふしの重なり方の違い</li> <li>6/8 (2拍子), 記号 (p, mp, mf, f, クレッシェンド, デクレッシェンド)</li> </ul>	旋律 楽譜の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジアの音楽</li> <li>おはやしづくり (太鼓のリズム, 笛のふしづくり)</li> <li>日本のふし (陰と陽の違い)</li> </ul>	アジアの音楽 日本の音楽 日本の旋律
	<ul style="list-style-type: none"> <li>弦楽器の音色 (バイオリン, チェロ)</li> <li>へ音記号と階名唱, 6/8拍子, 歌と楽器が重なり合う響きの美しさの感受</li> </ul>	楽器の音色 楽譜の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>和音 (I, IV, V, V7), 主旋律に合った伴奏の工夫</li> <li>旋律の特徴の感受, 和音の響きの違い</li> <li>威風堂々 (構造, 楽器, 合奏)</li> </ul>	和音 和音
第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>擬音語・擬態語の歌い方の工夫, 強弱の変化, ハ長調とイ短調の違い, イ短調の読譜指導</li> <li>アイネクライネナハトムジーク (構成, 弦楽器)</li> <li>曲づくり (言葉→リズムづくり→ふしづくり)</li> <li>歌詞の意味の理解, 情景の想像, 歌詞の表す雰囲気, 音の重なり, 旋律の強弱の変化</li> </ul>	旋律 楽譜の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の歌曲 (言葉の美しさ, 作曲家))</li> <li>歌詞の意味や内容の理解, 情景の想像, 旋律の反復や変化の感受, 歌い方の工夫</li> </ul>	音楽の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>音の重なり of 感受, 響き合う音の美しさの感受</li> <li>重奏と合奏の違いの認識 (合奏)</li> <li>歌詞の気持ちの想像, 歌い方の工夫</li> </ul>	
第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の気持ち, 旋律の特徴, 適切な速度, 歌い方の工夫, 速度記号</li> <li>歌詞の表している情景, 旋律やリズムの特徴, レガートな歌い方や曲の山を生かした歌い方の工夫</li> <li>合奏の工夫 (楽器の組み合わせ, リズム伴奏づくり)</li> </ul>	楽譜の知識
	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の音楽</li> <li>世界の音楽 (合唱, 歌と楽器)</li> <li>歌詞の内容, 情景, 旋律のまとまりやリズムの特徴, 速度や強弱の変化の工夫</li> </ul>	世界の音楽 世界の音楽
第 6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の響きの違い, 演奏形態やジャンルの違い</li> <li>歌詞の内容, 情景, 曲の気分, 旋律の抑揚を生かした歌い方の工夫</li> <li>パートの特徴や役割の理解, 旋律の特徴や違いの感受, 楽器の選択, バランスのとれた豊かな響きの合奏</li> </ul>	楽器の音色 音楽の知識

<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌と楽器の演奏</li> <li>・合唱の鑑賞（声種、合唱形態）</li> <li>・和音の響き（合唱）</li> <li>・各パートの旋律の特徴、三部合唱</li> <li>・情景、旋律やリズムの特徴、演奏形態、重なり合う響きの感受、三部合唱</li> </ul>	音楽の知識
<ul style="list-style-type: none"> <li>・木星（作曲家、管弦楽組曲「惑星」、ふし）（鑑賞、合奏）</li> <li>・表現の工夫（二部合唱）</li> </ul>	音楽の知識
<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の海（日本の楽器の響きの美しさ、箏、尺八）</li> <li>・雅楽</li> </ul>	日本の音楽
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イ短調</li> <li>・曲づくり（詩→リズムづくり→言葉の高低を調べる→ふしをつける）</li> <li>・歌詞の心情、表現の工夫（二部合唱）</li> </ul>	日本の音楽 旋律

#### 4. 『小学生の音楽』のカリキュラムの特徴

学年ごとの題材配置には、その学年での中心的な教育内容の題材のほかに、音色、曲想に関する題材が必ず含まれている。学年の最後には歌唱や演奏の題材が配置され、またどの学年にも、ふしづくりの活動が設定されている。

第1学年では、リズムの学習が中心となっている。最初のどの教材にも「拍の流れ」に乗ることが記載され、リズム譜も早くから登場する。階名唱も、鍵盤楽器の学習に合わせて始まる。第2学年では、リズムの学習に加えて、音高感の学習が強化される。階名唱が繰り返し行われ、楽譜の知識の学習も始まる。第3学年では、旋律の学習が中心となる。第4学年でも、旋律の学習が中心である。第5学年では、旋律の重なりや和音の教育内容が加わる。第6学年では、楽譜の知識や音楽の知識に関する教育内容が中心となっているが、他の学年よりは少ない。

表2の右の項目からわかるように、第1学年から第4学年では、教育内容に音楽の諸要素や音楽の知識に

関するものが多い。しかし、第5学年の後半から第6学年にかけては、音楽の諸要素は激減する。合唱や合奏の表現の工夫が多くなるためである。つまり、低・中学年では、教育内容の系統性が見られ、教育内容に合わせた教材が配置されているが、高学年では、教育内容が先行するのではなく、表現のための教材が中心となっているといえよう。音楽科授業に必要な音楽リテラシーに関する、リズム感、音高感、音色の識別、音楽的語彙等は、第4学年までにある程度獲得されると考えられる。しかし、全学年を通して重視されている「曲の様子」「曲の気分」「曲想」を、「思い浮かべる」「味わう」「感じ取る」ことによって表現の工夫へ結びつけることは難しい。『指導書 実践編』の第6学年では、「旋律やリズムの特徴を感じ取って」表現を工夫するという記述が見られるが、具体的なヒントはあげられておらず、主として表現上の注意点が楽譜上に記載されているにすぎない。第2・3・4学年の教育内容であったリズムや旋律の特徴を確実に把握することを繰り返しフィードバックしない限り、第5・6学年の教材の表現の工夫をすることは難しいであろう。

（三村 真弓）

#### 引用（参考）文献

- 1) 三村真弓, 吉富功修, 北野幸子「ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム—就学前教育から小学校1年生への系統性に着目して—」『音楽文化教育学 研究紀要』XX, 2008, p.6。
- 2) 矢野沙織「アメリカの音楽科教科書*Silver Burdett Making Music* (2008)に見られる単元構成」『中国四国教育学会 教育学研究紀要 (CD-ROM版)』第54巻, 2008, pp.555-556。
- 3) 河邊昭子氏, 福田秀範氏, 中村将之氏, 青原栄子氏, 大橋美代子氏, 徳永雅也氏 (府中市立府中小学校)。